

2. 東北（地域別調査機関：公益財団法人東北活性化研究センター）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向 関連 (東北)	良く なっている やや良くなっている	衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・今年は例年に比べて春が早い暖かく、春物、特にスーツやジャケットなどの動きが良い。
		商店街（代表者）	単価の動き	・現状の流れとしてはさほどの変化はない。ただし、単価が多少上昇しているものの、来客数が減少していることが懸念材料である。
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	販売量の動き	・販売量が3か月前と比較して105%と顕著に良くなっており、売上も伸びている。
		一般小売店〔寝具〕（経営者）	販売量の動き	・復興住宅からのカーテンやふとんの注文が徐々に増えている。
		百貨店（買付担当）	お客様の様子	・気温が高めで推移しており春物の動きが良い状態である。また、セール品をまとめ買いするなど、購買意欲のある客が増えてきている。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・来客数が増加傾向にあることから、景気が上向いていると実感している。
		コンビニ（店長）	競争相手の様子	・競合店の影響はかなり大きい、冬場に比べて経費面の負担が減り、来客数も戻ってきている。
		衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・暖かくなって客は初夏物の準備を始めているのか、人通りも多くなり、商店街にも活気が出てきている。
		住関連専門店（経営者）	来客数の動き	・クルーズ客船前での販売が非常に良い状態である。
		一般レストラン（経営者）	販売量の動き	・メディアなどに紹介されて販売量や売上が増加した前年との比較となるため、前年比が落ち込むことを心配していたが、大きな予約が入ったこともあり、前年並みで推移している。ただし、良い時と悪い時の差が激しい状況でもある。
		都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・ホテル全体、特に歓送迎会シーズンによる宴会需要が前年比でプラスとなっている。また、有名絵画展覧会の開催効果でレストランの来客数が増加している。
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・3月から継続している新生活応援キャンペーンの効果もあり、新規の加入者が増えている。
		観光名所（職員）	来客数の動き	・前年よりも天候に左右されずに来客数が伸びている。2～3か月前には無かったフリー客の増加もあり、人が外に出かける傾向になっているのではないかと。そのため、景気がやや上向いている感がある。
		競艇場（職員）	単価の動き	・来客数はそれほど変わらないものの、1人当たりの単価が数千円ほど上昇している。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・今年に入り来客数が増加している。
		その他サービス〔自動車整備業〕（経営者）	販売量の動き	・新年度に入っても販売量、売上共に好調である。
住宅販売会社（経営者）	販売量の動き	・小規模な分譲地を開発しているが、造成完成前にほぼ完売している状況である。		
変わらない	変わらない	商店街（代表者）	来客数の動き	・昭和の高度成長期を経験した者にとっては、失われた20年や米国の大手金融機関の破たん後のことを考えれば、随分落ち着いてきており、消費者が身の丈にあった生活を着実にやっているように見受けられる。デフレを脱却するなどという大見得を切らずに、これをスタンダードとして、成熟社会の王道を進めばよいのではないかと。
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	お客様の様子	・桜の開花が例年より早く、4月上旬～中旬は満開であった。そのため、花見客が2次会などで夜の街に流れてくると期待していたが、そのような傾向は全くみられず、町の消費動向になんら影響を及ぼさない状態である。
		一般小売店〔カメラ〕（店長）	販売量の動き	・高額商材に動きがみられているものの、低価格商材の動きが鈍く販売量は横ばいで推移している。
		百貨店（営業担当）	お客様の様子	・卒業や入学、新社会人など春のセレモニーのシーズンであるが、衣料品を中心に単価が上がっていない。また、返礼ギフトも例年に比べて減少している。

百貨店（売場担当）	来客数の動き	・一般的な景気の状態に変化はなく、年々減少する来客数を目の当たりにしている。また、4月は三寒四温の状態で初夏物の動きが不安定になるなか、今年は特に夏日が続いたかと思えば気温が10度まで落ち込んだりするため、今売れるべき洋品アイテムやパンツのセットが伸び切れていない。さらに、来客数の減少も目立っており、花見やゴールデンウィークにおける来客数の減少も気になるところである。
スーパー（経営者）	単価の動き	・4月は1品単価、来客数共に前年並みで推移しているが、安売りで買上点数が増加したため、売上は前年をクリアしている。客はより価格に敏感な印象であり、財布のひもが固い状態が続いている。そのため、消費傾向に変化はない。
スーパー（店長）	来客数の動き	・売上の前年比は105%であり、3か月前から直近では約103～105%で推移している。そのため、動向にあまり変化がない状況である。
スーパー（店長）	来客数の動き	・特に変化はない。
スーパー（総務担当）	来客数の動き	・来客数の増加がそのまま売上の増加につながっている。ただし、買上点数は大きく伸びているものの、1品単価は下がり続けている。
スーパー（営業担当）	来客数の動き	・来客数の前年比は減少傾向にある。しかし、1品単価が上がっており、売上の減少を食い止めている。
スーパー（営業担当）	お客様の様子	・ここ数か月は既存店の数値にほぼ変化がない状況である。
コンビニ（経営者）	来客数の動き	・来客数の減少がそのまま売上減少に直結している。しかし、客単価や買上点数は前年並みであり、景気が冷え込んでいるという印象はない。
コンビニ（経営者）	販売量の動き	・やや悪い状態が続いている。周辺の企業も給料はあまり上がっていない様子であり、客はなかなか新しい商品に手を伸ばそうとしない。
コンビニ（経営者）	来客数の動き	・来客数は前年比100%を維持しているが、客単価が上がらない状態が続いている。
コンビニ（エリア担当）	お客様の様子	・来客数における前年比のマイナス幅が拡大しており、回復の兆しがみられていない。
衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・新入学生の需要や初給料で身の回りの関連商品が動く期待したが、思いのほか良くない状態である。
衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・ビジネス用品のニーズが減少している。また、カジュアルにおいて単価が稼げるインポート商品の動きが鈍くなっている。
衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・4月の来客数は前年より微増しているが、チラシによる超特価商品を購入する客が増えているためである。
衣料品専門店（総務担当）	販売量の動き	・4月は学生需要に特化した商品が動いて売上に表れる月であるが、今年はそのような動きが見受けられていない。
乗用車販売店（経営者）	来客数の動き	・4月中盤以降は新規来客数が減少傾向であり、需要期が過ぎ去った感がある。
乗用車販売店（従業員）	来客数の動き	・決算月である3月に客の動きは多少あったが、4月になって元に戻っている。
住関連専門店（経営者）	来客数の動き	・仏壇仏具販売店へと業務形態を変更したが、最近では小型仏壇や家具調仏壇を求める客が多く、価格面では落ち込む傾向となっている。
その他専門店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・今月は歓送迎会、異動、花見といった需要が期待できる月である。しかし、地元では来客数はあるものの、お酒の売上にはつながらずに販売量が落ち込んでいる。また、県外都市部では特定の商品が売れてはいるものの、全体の落ち込みをカバーするまでには至っていない。
その他専門店〔白衣・ユニフォーム〕（営業担当）	販売量の動き	・4月は繁忙期であるにもかかわらず前年に比べて販売量が減少している。受注自体が減っており、顧客単価も下がっていることが要因であるが、そうなった原因がわからない。例年とは違う動きになっているのかもしれない。
その他専門店〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	販売量の動き	・販売量の動きがこれまでの状況と変わらない状態が続いている。
高級レストラン（経営者）	販売量の動き	・少しは景気が良くなることを期待していたが、消費者のマインドは、さっぱり持ち上がっていない様子である。

一般レストラン（経営者）	お客様の様子	・新しいシーズンを迎えて活気に満ちてはいるものの、客の動きなどからは、良くも悪くも生活が変化しているような様子が見受けられない。	
観光型ホテル（スタッフ）	お客様の様子	・相変わらず個人消費が鈍い状態が続いている。	
観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・閑散期のため動きは少なく、例年とあまり変わらない状況である。	
旅行代理店（経営者）	販売量の動き	・ふるさと割の取扱により団体旅行は好調であるが、個人旅行はあまり芳しくない状況である。	
旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・国内は北海道新幹線が開業したものの、北陸新幹線開業ほどの予約状況には至っていない。また、ゴールデンウィークも曜日並びの関係で平年並みの申込数となっている。海外については、少しずつ夏に向けた受注が増えてきているが、安価で高品質な商品を客がじっくりと検討しており、まだまだ様子見の傾向がうかがえる。	
タクシー運転手	お客様の様子	・景気は良くなっている。客から不景気な話どころが大変順調であると聞いている。タクシー業界も特別良いわけではないが、切れ目なく乗客がいる状態である。	
通信会社（営業担当）	単価の動き	・東日本大震災の復興が熊本地震と重なり、東北地域の復興が鈍くなってきている。熊本地震の被災地の方々の気持ちを痛感しており、今後はお互い経済力をつけていかないと景気は上がらない。マイナス金利政策の影響もなく、前月と変わらない状況が続いている。	
通信会社（営業担当）	お客様の様子	・顧客の設備投資意欲に変化がみられない。	
通信会社（営業担当）	お客様の様子	・商談において、価格要求が厳しい状況である。	
遊園地（経営者）	来客数の動き	・前年は天候その外の要因で不調であったが、今年は気候が温暖に推移しており、月末のゴールデンウィーク次第ではあるものの、平年並みの来客数を確保している。	
美容室（経営者）	単価の動き	・客単価はここ数か月横ばいで推移しており、前年と比較しても動きに変化はない。	
美容室（経営者）	お客様の様子	・美容室のシャンプーやトリートメント剤を購入する客は、会計時に消費税が加算された額を見ると、かなり高く感じる様子であり驚いている。いまだに消費税増税は定着していないのではないかと。	
やや悪くなっている	商店街（代表者）	販売量の動き	・今年の春は早い時期から暖かくなっているが、商店街に来る客は今一つという雰囲気である。駅及び駅周辺の整備で商業集積が拡大したことが、相当影響しているように見受けられる。
	一般小売店〔書籍〕（経営者）	販売量の動き	・作品の話題性や新作のシナリオの傾向がマンネリ化しているため、販売量が伸び悩んでいる。
	百貨店（総務担当）	来客数の動き	・衣料が売れていない。
	百貨店（営業担当）	販売量の動き	・前年12月の地下鉄新規路線開通、今年3月の駅前大型商業施設のオープン後、街なかの人の動きに変化が表れており、来客数が減少している。また、今まで好調であった生鮮食品、総菜など食品の売上が減少している。ただし、大型商業施設オープンの効果で街なかには人は多く、消費行動の落ち込みはない。
	百貨店（経営者）	販売量の動き	・新年度に入り、新生活、返礼ギフトや高額商材、紳士衣料が伸び悩んでいる。全体的に来客数が減少しており、接客をしても、客から生活防衛的な話を多く聞いている。
	スーパー（経営者）	来客数の動き	・熊本地震を機に、ごちそうを控えめにするなど、買物が少し抑え気味になっている様子がうかがえる。
	スーパー（経営者）	お客様の様子	・高齢者の客が買い控えている。さらに、子育て世代に買い回りの傾向がみられている。
	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・3か月連続で来客数が前年を下回っている状況である。
	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・競争環境の悪化と天候不良により、来客数が減少している。
	コンビニ（店長）	お客様の様子	・客は売場を吟味しながら安い商品を選んでいる。また、元気が無く非常にいらいらしている様子の客が目立っている。

衣料品専門店 (経営者)	単価の動き	・客は価格に対してますますシビアになっており、春物の実需期であるにもかかわらず、販売量、単価共に前年を10%ほど下回っている。
家電量販店(店 長)	販売量の動き	・エアコンなどの季節商材は前年並みであり、単価の高いものも売れている。また、冷蔵庫や洗濯機などの買換え需要の商品も前年並みで推移している。しかし、テレビ、パソコンは前年比90%もしくは90%を下回っている。全体的には客の買換え需要が底堅く、単価も少し下がっているように見える。
乗用車販売店 (経営者)	販売量の動き	・消費税増税後の反動減は解消されつつあるが、大手自動車メーカーの燃費不正問題で該当する軽自動車販売停止となった影響は大きい。
乗用車販売店 (経営者)	販売量の動き	・受注量が前年比で約8割程度となっている。また、熊本地震の影響により、メーカーの生産ラインが一時停止している。
乗用車販売店 (従業員)	販売量の動き	・大手自動車メーカーの燃費不正問題があり、軽自動車が1台も売れなくなっている。
乗用車販売店 (店長)	来客数の動き	・初売りなどがあった1月と比較すると、来客数は減少している。
住関連専門店 (経営者)	販売量の動き	・オーダーメイド家具の生産のため、年度末までは前もっての受注が多い状態であったが、その分4月は受注残が少なくなっており、販売量も少ない状況である。
その他専門店 [酒](経営 者)	販売量の動き	・今月は特に販売量が低調であり、平日は飲食店からの発注も少ない状況である。消費税率10%への引上げや熊本地震などに対して消費者の反応が敏感になっており、購買意欲が著しく低下している様子が見える。
その他専門店 [靴](従業 員)	販売量の動き	・納品先の在庫調整で売上に影響がでている。また、売れ筋商品の取扱に強い大型店に客を奪われている。
その他専門店 [ガソリンスタ ンド](営業担 当)	販売量の動き	・暖冬傾向が続いているため、暖房用燃料の販売量は前年比80%台と低調で推移しており、収益が悪化している。また、原発事故の除染が一段落しており、新たな需要も無いため、軽油の販売量も減少している。
その他小売 [ショッピング センター](統 括)	それ以外	・熊本地震による影響が、企業の生産活動にも表れてきている。
高級レストラン (支配人)	来客数の動き	・気温の上昇に伴い、外食をする客が増えることを期待していたが、来客数は前年に比べて下回っている。特にディナー時の法人利用の低迷が大きく影響しており、予約状況も今一つ伸びていない。
一般レストラン (経営者)	来客数の動き	・前年より少しずつ商品の値上げをしているが、そうすると客が来店する間隔が広がってしまう。今までは価格を少し高くしたほうが良いといわれていたが、他店をみると値下げをしているようであり、景気は若干悪くなっているのではないかと。
一般レストラン (経営者)	来客数の動き	・東日本大震災の年を除き、こんなに暇な4月は初めてというくらいに来客数が少ない。昼の客も少ないが、夜の客が1人も来ない日があったりと、非常に厳しい状態が続いている。
観光型ホテル (経営者)	来客数の動き	・熊本地震の影響で、九州の客からキャンセルが出ている。また、全国から集まる大会などの中止による影響も出ている。
都市型ホテル (スタッフ)	お客様の様子	・北海道新幹線開業の影響があるのか、当地域は青森に向かう東北の玄関口であるため、当ホテルの宿泊稼働率は非常に良くなっている。その点は良いのだが、一般宴会、婚礼部門は今一つの状態である。
都市型ホテル (スタッフ)	来客数の動き	・法人、団体の利用数、個人の来客数共に前年を下回っており、来月以降の予約も芳しくない状況である。
都市型ホテル (スタッフ)	販売量の動き	・数か月前から停滞感が続いていたが、4月中旬から徐々に下降気味に推移している。前年比も大きくマイナスとなり、明らかに景気が悪くなる方向に進み始めている。
旅行代理店(店 長)	それ以外	・熊本地震の影響もあり、旅行業界としては顧客の動向が読めない状況である。
タクシー運転手	お客様の様子	・地下鉄新規路線開通の影響が段々大きくなってきている。

		タクシー運転手	来客数の動き	・とにかく乗客が少ない。前は良く年配の客が病院へ行くためにタクシーを利用していたが、最近は全く利用しなくなっている。
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・マイナス金利の導入以降、景気は低下している。客の様子をみても消費に二の足を踏んでおり、財布のひもが固くなっている。
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・商品の値下げ要求が多くなっている。
		観光名所（職員）	来客数の動き	・ゴールデンウィークに入り寒さが戻ったせいか、来客数が少ない状態となっている。
		その他住宅[リフォーム]（従業員）	販売量の動き	・前年はエコポイントの追い風があったが、今年は消費税率10%への引上げによる追い風が吹く気配はない。
	悪くなっている	商店街（代表者）	お客様の様子	・メインである企業の消費がほとんど止まっており、非常に深刻な状態である。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・一極集中がより強く見受けられており、中央大手と地元の格差を実感している。
		一般小売店[医薬品]（経営者）	来客数の動き	・今月は非常に悪く、客単価、来客数共に約15%の落ち込みとなっている。2014年4月の消費税増税直後に近い状況であるが、当時と異なり、どうしてこのような急激な落ち込みとなったのか要因を測りかねている。
		乗用車販売店（店長）	それ以外	・大手自動車メーカーの燃費不正問題により、軽自動車の販売が停止となっている。当店の主力車種であるため、販売台数の減少により減収となっている。
企業動向関連 (東北)	良くなっている やや良くなっている	建設業（従業員）	受注量や販売量の動き	・年度毎発注の公共工事などを中心に、一定の受注が確保できている状況である。
		食料品製造業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・地元駅の改装が完了しており、人が集まってきている。
		出版・印刷・同関連産業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・前年同時期及び3か月前と比較して、売上が5%ほど増加している。
		広告業協会（役員）	それ以外	・3月下旬にオープンした駅ビル商業施設は、地下鉄新規路線開通もあり好調である。中心部の百貨店や専門店にも波及効果があり、2か月連続の増加となっている。そのため、広告市場も底堅いといえる。
変わらない		農林水産業（従業員）	それ以外	・果物農家の収入が前年の2割増しであったため、今月も農機具の買換えをする農家が目立っている。
		食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・3月は駅ビルの新館オープンにより駅構内の店舗の売上が増加したが、4月に入り春休みが終わると元に戻ってしまっている。
		食料品製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・依然として販売量が伸びず、前年比90%台が続いている。
		木材木製品製造業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・住宅部材の販売単価の改善が進まない状況が続いている。
		出版・印刷・同関連産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・4月の売上は前年並みで推移している。
		土石製品製造販売（従業員）	受注量や販売量の動き	・新年度となったが、大きな工事が入っていない状態である。
		電気機械器具製造業（企画担当）	受注価格や販売価格の動き	・販売量が下げ止まった状態のままであり、大きな変化はない。
		建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・景気の動向がはっきりしないため、客は先に備えてお金を使わない気持ちが強くなっているように見受けられる。
		建設業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・手持ち工事の稼働率は高い状態が続いている。
		輸送業（経営者）	受注量や販売量の動き	・業種による増減はあるが、全体的には安定した物量となっている。
		通信業（営業担当）	取引先の様子	・顧客減少を補うため新規開拓を開始しているが、認知度が低いと苦戦を強いられている。
		通信業（営業担当）	取引先の様子	・設備投資をする企業は増えていない。また、人材を採用する企業も増えていないといえない。
		金融業（営業担当）	取引先の様子	・円高、株安など市場動向が激しく、様子見の状況が続いている。
		金融業（広報担当）	取引先の様子	・北海道新幹線開業の影響については、まだ判断ができない。

	公認会計士	取引先の様子	・建設業関係は売上、利益共に減少傾向ではあるものの、一定の利益は確保しているため大きな変化はない。ただし、小売業、サービス業関係は、業績が伸びている会社と減少している会社との差が大きくなっている。	
	コピーサービス業（従業員）	受注量や販売量の動き	・売上は、ほとんど変化がないまま推移している。	
	その他非製造業 〔飲食品卸売業〕（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・地元は小規模企業や零細企業が多く、給与が上がらず賞与もほとんど無いことから、消費者の財布のひもが固いままの状態である。	
	その他企業〔企画業〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・発注案件数が少ない状況が続いている。	
やや悪くなっている	農林水産業（従業員）	受注価格や販売価格の動き	・平成27年度産米の精算が遅れている。	
	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・依然として受注量が前年を下回っており、回復していない。	
	電気機械器具製造業（営業担当）	取引先の様子	・大手の動きが止まっているのか、末端の設計事務所の仕事が減ってきている様子である。	
	広告代理店（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・年度契約の印刷料金や広告料金の下落が大きい。価格競争が更に激化している。	
	経営コンサルタント	取引先の様子	・春の賃上げの状況において、報道で伝えられているような上げ幅にはなっていない。	
悪くなっている	繊維工業（経営者）	取引先の様子	・とにかく店頭売行きが悪い。	
雇用関連	良くなっている	-	-	
(東北)	やや良くなっている	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・4月に新卒の入社や組織体制を変更した企業が多いが、今年度の目標達成に向けて積極的に中途採用を行う企業が増えてきている。
		アウトソーシング企業（社員）	それ以外	・仕事は多いが、それに対して従業員の数が足りていない。求人を出してもなかなか人手が集まらないので景気は良くなっているのではない。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・北海道新幹線を利用した個人旅行者が増えるなど、開業効果が表れている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・幅広い業種で求人活動が活発になってきている。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	それ以外	・4月は、3月末で終了した派遣契約数を大幅に上回ることができず、ほぼ横ばいの推移となっている。
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・地元私立大学の今年の卒業生の内定率をみても、前年と同等かそれ以上の状況となっているため、現在の景気は比較的良好な状況にあるといえる。
		人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・求職者が増加しない状況が続いている。
		人材派遣会社（社員）	採用者数の動き	・中小企業の採用難は相変わらずである。駅前大型商業施設オープンによる労働力の偏り、求人メディアのWebによる好待遇職種への応募の偏り、少子高齢化に対する企業側の対応の遅れなど、要因は様々だが企業活動に与える影響は少なくない。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・地元駅の改装や北海道新幹線開業の影響により、駅を中心に盛り上がりを見せている。景気上昇感があり、採用においても普段より多くの求人が寄せられている。しかし、それ以外の地域ではマイナス気味であり、平均するとそれほどの効果が無く、駅前が1人勝ちの様相を呈している。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人では製造業、サービス業のほかに、その他のサービス業として人材派遣求人が増加している。
		職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・製造関係の事業縮小や、介護関係の事業の閉鎖のような相談がやや増えているようである。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求職者数、有効求職者数の減少傾向に底打ち感が出てきている。また、新規求人数並びに月間有効求人数の増加傾向が緩やかになりつつあるものの、有効求人倍率は9か月連続して1.1倍台以上で推移しており、求人数の増加が続いていることに明るい印象がある。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・有効求人数は前年と比較して2か月連続で減少し、新規求人数も4か月連続で減少している。しかし、求職者も減少傾向にあるため、状況に大きな変化はない。

	職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・有効求人倍率は上昇傾向にあり、景気回復の兆しが見受けられる。しかし、売上が増加していても収益が思うように伸びずに、苦戦している企業が多い様子である。
やや悪くなっている	職業安定所（職員）	それ以外	・製造業において、事業縮小により従業員を解雇する事業所が複数発生している。
	民間職業紹介機関（職員）	求人数の動き	・震災復興関連事業もようやく終了に向かってきているが、これに伴う求人の減少を、他業種でカバーできていない。
悪くなっている	-	-	-